

半割れケースと一部割れケースにおける 後発地震の比較

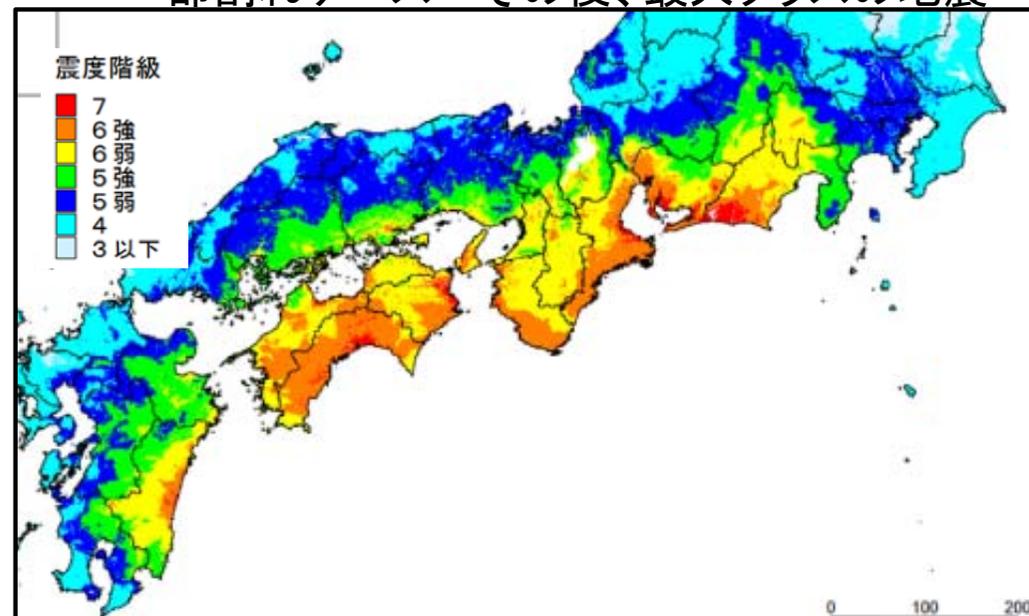
半割れケースと一部割れケースの比較(地震動)

半割れケースと一部割れケースについて、その後想定される地震・津波の大きさが異なるか事務局にて整理した。

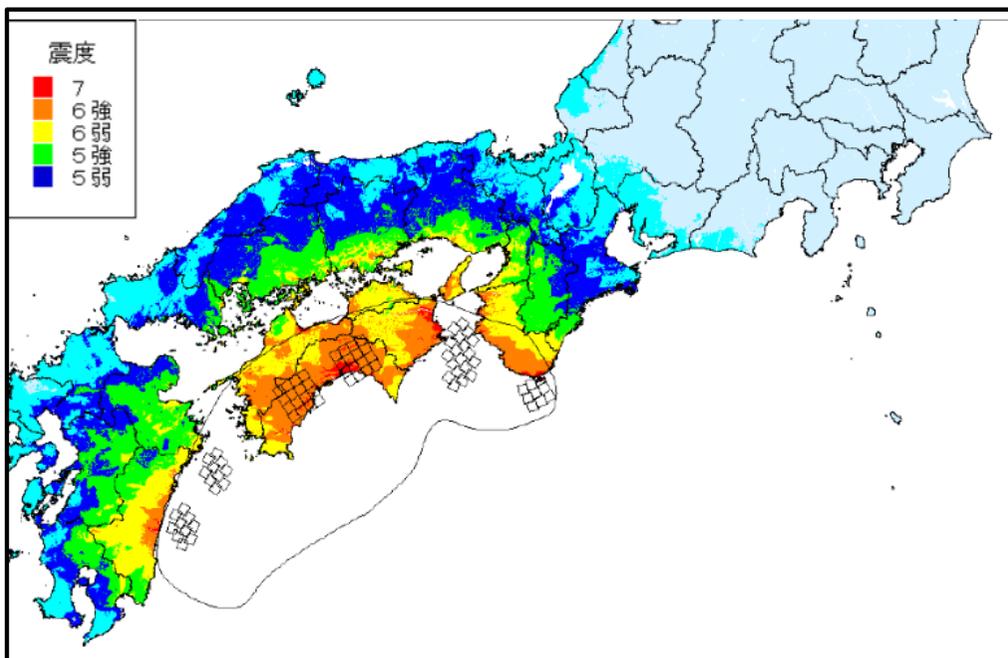
(地震動について)

- 一部割れケースでは、最初の地震だけでは想定震源域のほとんどのひずみが解放していないため、一部割れケース後に想定される多様な地震の中で最大規模の地震としては、最大クラスの地震(M9.0)を想定
- 個々の強震動生成域の応力降下量は震源域の広さに依存しないと想定しているため、半割れケースにおいても、震源域付近での震度は、最大クラスの地震と同程度になる。

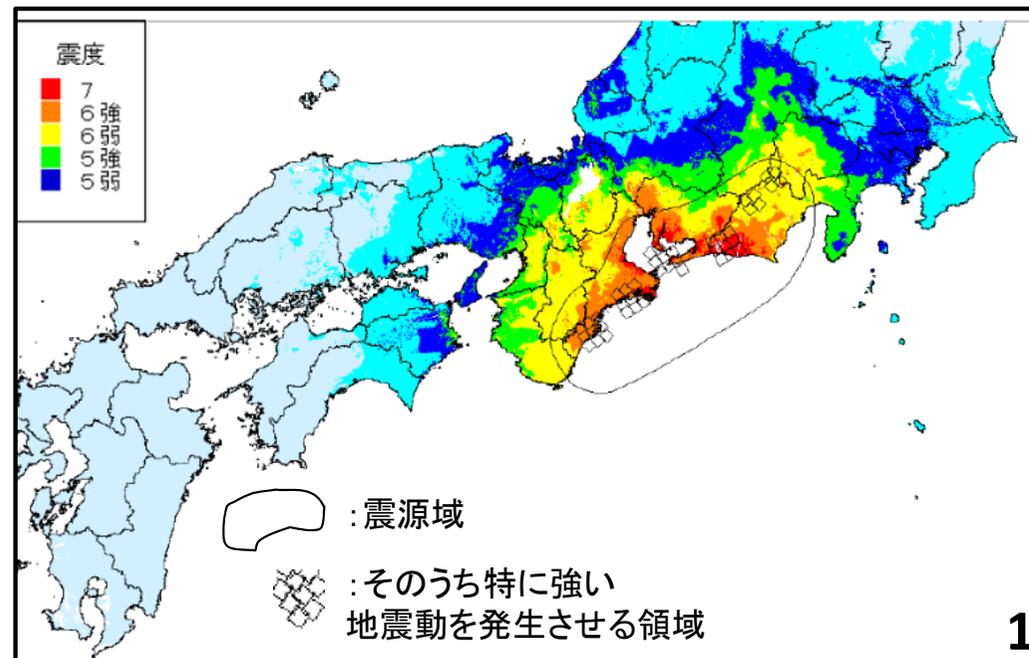
一部割れケース⇒その後、最大クラスの地震



半割れケース(例1、紀伊半島より西側の場合)



半割れケース(例2、紀伊半島より東側の場合)



半割れケースと一部割れケースの比較(津波浸水)

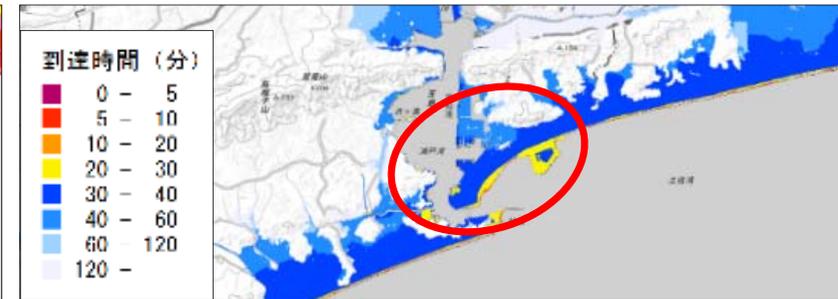
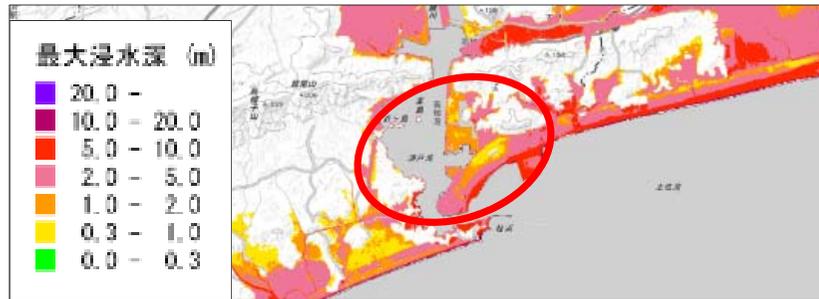
(津波浸水について)

- ・地震動同様、一部割れケース後の津波としては、最大クラスの地震による津波を想定。
- ・半割れケースでは、例えば紀伊半島以西(想定震源域の3分の2程度の面積)で津波が発生した場合を想定すると、スケーリング則から最大クラスの地震と比較して4分の3程度のすべり量の津波が発生。
- ・割れ残っている領域がより広い場合は、より最大クラスの地震に近いすべり量となる。

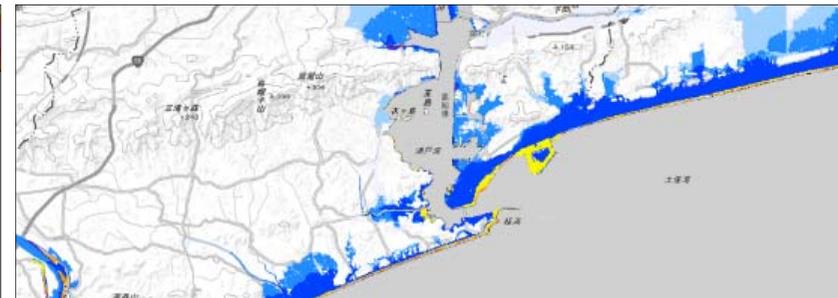
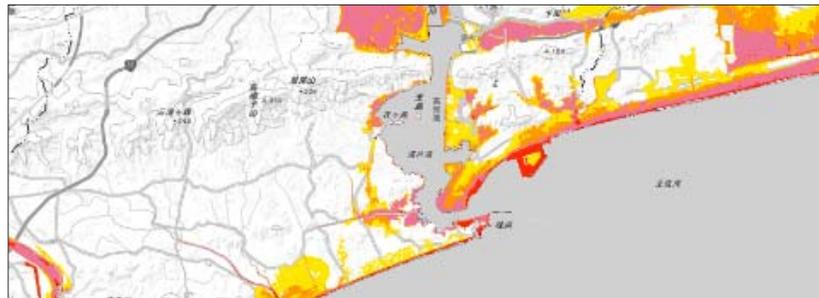
浸水深分布図

到達時間分布図

一部割れケース⇒その後、最大クラスの地震



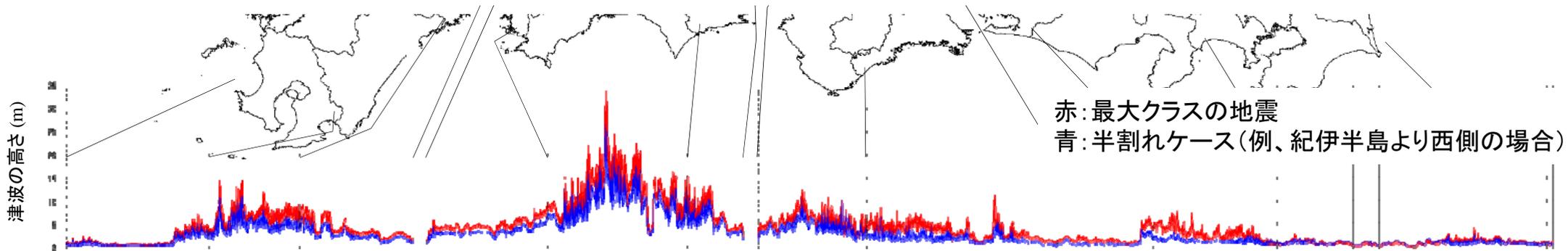
半割れケース(例、紀伊半島より西側の場合)



※いずれもH24報告書のケース④の津波モデルに基づき作成

⇒半割れケースの方が若干小さい

⇒(震源域までの距離は変わらないので)ほぼ同じ



・あらかじめ多様な「半割れケース」のパターンごとの津波浸水を計算し、防災対応を検討することは現実的ではない。→ 地震動の大きさや津波到達時間が両ケースで同程度であることも踏まえ、いずれのケース後も、最大クラスの地震・津波を想定して防災対応を検討することが適切ではないか